

- 問1 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景と目的について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 将軍の命令を全国に徹底させ、守護大名の権限を制限することで幕府の権威を取り戻すため。
  2. 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。
  3. 朝廷から与えられた守護としての特権を誇示し、伝統的な荘園領主の権利を保護するため。
  4. 海外との貿易を独占し、キリスト教の布教を認めることで南蛮文化を取り入れるため。
- 
- 問2 戦国大名の朝倉氏が定めた「城郭の構築に制限を設ける規定」や、伊達氏が定めた「年貢を納めない農民への処罰に関する規定」など、当時の大名が独自に定めた法典が持っていた共通の目的として、最も適切なものはどれか。 (2024年 奈良公立入試 類似)
1. 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること
  2. 室町幕府の将軍から授かった権限を、領民に広く知らしめること
  3. 土地をすべて公有とし、農民に平等に配分して税収を安定させること
  4. すべての裁判を天皇や公家が行うという原則を確立すること
- 
- 問3 1549年にフランシスコ・ザビエルが日本に上陸し、キリスト教を伝えた背景には、当時のヨーロッパにおける宗教情勢が深く関わっています。キリスト教が日本に伝えられるに至った直接的な背景を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 長野県公立入試 類似)
1. 宗教改革によるカトリック教会の勢力衰退に対し、新たな信者を獲得するためにアジアなど海外への布教が重視された。
  2. ルネサンスの進展によって人間中心の考え方が広まった結果、宗教の枠組みを超えた世界規模の文化交流が推奨された。
  3. 十字軍の遠征が失敗に終わったことで、キリスト教徒がイスラム教勢力に対抗するための同盟国を東アジアに求めた。
  4. ルターが自身の教えを世界に広めるために組織を設立し、その活動の一環として日本が最初の布教先に選ばれた。
- 
- 問4 会津地方を治めた蘆名氏や伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した
  2. アメリカで奴隷制をめぐる南北戦争が勃発した
  3. フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした
  4. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した
- 
- 問5 戦国大名の朝倉氏が、拠点である一乗谷において、それまで各領地にいた有力な家臣をすべて城下町に移住させた目的として、最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため
  2. 家臣に独自の関所を設置させることで、商工業者から税を徴収しやすくするため
  3. 家臣に領地の経営を完全に任せるとして、大名が外交や文化活動に専念するため
  4. 家臣を海外貿易の拠点に近い沿岸部に集め、輸入品を独占的に管理させるため
- 
- 問6 1543年に種子島に漂着した船により、日本に初めて鉄砲が伝えられました。当時の種子島の鍛冶職人がその仕組みを学び国産化を進めたといわれる、この武器を日本に伝え、後に長崎などを拠点にキリスト教の布教を伴う貿易を行った国はどこですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)
1. ポルトガル
  2. スペイン
  3. オランダ
  4. イギリス
- 
- 問7 鉄砲の伝来がその後の日本の戦いや社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。 (2014年 沖縄公立入試 類似)
1. 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。
  2. 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。
  3. 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。
  4. 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。
- 
- 問8 16世紀後半に甲斐や信濃の一部で使われていた、度量衡に関する独自の基準である「甲州ます」の説明として、最も適切な記述を選びなさい。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
1. 中央の京で使われていた標準的な枙とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた
  2. 将軍の足利義昭が京都の商人に命じて作らせ、全国の有力大名に配布した標準的な枙である
  3. 江戸幕府が貨幣制度の安定を目指して制定した、全国で唯一使用が認められた公認の計量器である
  4. 南蛮貿易を通じてキリスト教の宣教師たちが持ち込んだ、西洋式の容量単位に基づいた枙である
- 
- 問9 室町時代後期から戦国時代にかけて、各地の実力者が幕府の法に頼らず、自らの領国内を統治するために独自に制定した法律を何と称しますか。 (2024年 岡山公立入試 類似)
1. 分国法
  2. 御成敗式目
  3. 武家諸法度
  4. 公事方御定書
- 
- 問10 室町時代後期から戦国時代にかけて、実力のある者が上位の者を打ち倒す「下剋上」の風潮が広がる中、各地の戦国大名は自らの力で領国を統治する必要がありました。このように、戦国大名が領国内の家臣や民衆の行動を規制し、支配を維持するために独自に定めた法を何と称しますか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
1. 分国法
  2. 武家諸法度
  3. 公事方御定書
  4. 御成敗式目
- 
- 問11 大航海時代において、ポルトガルの航海者バスコ＝ダ＝ガマがインド航路の開拓に成功したことが、その後のヨーロッパ諸国に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 大阪公立入試 類似)
1. 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した
  2. 大西洋を西に進む航路が否定され、すべての探検家がアフリカ経由を目指すようになった
  3. 宗教改革が始まり、キリスト教の布教を目的とした航海が中止された
  4. アメリカ大陸への植民地支配が終了し、交易の拠点がすべてアジアへ移った
- 
- 問12 武士に関わる法律の歴史について、鎌倉時代に北条泰時が制定した「御成敗式目」、江戸時代に幕府が大名を統制するために制定した「武家諸法度」、そして戦国時代に各大名が領国支配のために制定した法律を順に並べたものとして適切なものはどれですか。 (2020年 佐賀公立入試 類似)
1. 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度
  2. 分国法 - 御成敗式目 - 武家諸法度
  3. 御成敗式目 - 武家諸法度 - 分国法
  4. 武家諸法度 - 分国法 - 御成敗式目
- 
- 問13 16世紀半ばにキリスト教が日本に伝えられた当時の社会情勢や、その後の歴史的経緯について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2020年 沖縄公立入試 類似)
1. フランシスコ・ザビエルによる布教以降、南蛮貿易の利益を求める戦国大名の中には、キリスト教に入信するキリシタン大名が現れた。
  2. 織田信長は仏教勢力との対抗を優先し、キリスト教の布教を厳しく禁じてキリスト教徒を弾圧した。
  3. 豊臣秀吉は海外貿易の利益を重視し、バテレン追放令を出した後もキリスト教徒を一貫して手厚く保護し続けた。
  4. 当時の日本は鎖国体制が完成しており、ヨーロッパ諸国のうちイギリス一国とのみ、長崎の出島で貿易を行っていた。

## 答え合わせ・解説

問1	答え 2 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。	戦国大名は隣接する他の勢力と常に戦う状況にあり、領国内での内紛は命取りとなりました。そのため、武士たちの勝手な婚姻を禁止したり、農民が年貢を納める義務を明確にしたりすることで、領地全体を強力に統率し、富国強兵を図る狙いがありました。
問2	答え 1 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること	戦国大名は、家臣が勝手に城を築くことを制限して反乱を防止したり、年貢の徴収を徹底して軍事費を確保したりすることで、領国の支配を確かなものにしよとしました。分国法は、戦国時代を勝ち抜くための「富国強兵」を目指した統治の仕組みです。幕府の権威が及ばなくなった時代背景を反映しています。
問3	答え 1 宗教改革によるカトリック教会の勢力衰退に対し、新たな信者を獲得するためにアジアなど海外への布教が重視された。	ルターによる宗教改革の影響で、ヨーロッパ内でのカトリック教会の勢力が弱まりました。これに危機感を抱いたカトリック側は、失った勢力を補い、教勢を回復させるために、大航海時代でつながったアジアなどの海外諸国へ積極的に進出しました。イエズス会の活動はこの一環であり、日本へのキリスト教伝来もその大きな流れの中に位置づけられます。
問4	答え 1 ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した	日本の戦国時代は主に15世紀後半から16世紀にかけての時期を指します。この時期、世界ではルターによる宗教改革が始まり、キリスト教の世界に大きな変化が起きていました。南北戦争は19世紀、フランス革命は18世紀末、イスラム教の創始は7世紀の出来事であり、日本の戦国時代とは時期が異なります。
問5	答え 1 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため	戦国大名は、家臣が自分の領地に深く根を下ろしていると反乱の恐れがあると考え、一乗谷のような拠点に家臣を住まわせることで直接的な監視を行いました。同時に、一箇所に家臣やその兵力を集めることで、戦時に迅速な出陣が可能となる軍制を構築しました。これは、後の豊臣秀吉らによる「兵農分離」へとつながる重要な政策です。
問6	答え 1 ポルトガル	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人です。この出来事をきっかけに、日本国内で鉄砲の量産が始まり、戦国時代の戦術が大きく変化しました。また、ポルトガルとの貿易は「南蛮貿易」と呼ばれ、キリスト教の布教と密接に結びついていたことが特徴です。
問7	答え 1 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。	鉄砲の普及により、それまでの騎馬武者による一騎打ち中心の戦い方から、足軽による集団戦術へと大きく変化しました。織田信長が長篠の戦いで鉄砲隊を活用したことはその代表例です。また、鉄砲や大砲の攻撃に耐えるため、石垣を高く積み上げ、広い堀を持つ巨大な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面に大きな変革をもたらしました。
問8	答え 1 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた	甲州ますは、戦国時代に武田氏の領国などで使用された枡です。当時、中央では「京枡」が使われていましたが、地方の有力大名は自分の領内の経済や税（年貢）の徴収を管理するために、独自の度量衡を定めていました。甲州ますの容量が京の基準と異なっていたことは、当時の地域社会が独自の経済圏を持っていたことを象徴しています。足利義昭などの将軍が全国の基準を統一した事実はなく、むしろこうした地域ごとの差異が戦国時代の特徴の一つと言えます。
問9	答え 1 分国法	応仁の乱以降、室町幕府の権威が衰退したため、各地の戦国大名は自分の力で領国を維持・発展させる必要がありました。そこで、家臣同士の争いを裁いたり、領国内の治安を維持したりするために、独自に制定した法が「分国法」です。今川氏の「今川仮名目録」や武田氏の「甲州法度之次第」などが有名です。
問10	答え 1 分国法	戦国時代には幕府の権威が衰え、全国一律の法が機能しなくなりました。そのため、各地の戦国大名は自分の領地（分国）を治めるために独自のルールを制定しました。今川仮名目録や、武田氏の甲州法度次第などが有名です。江戸時代に幕府が大名を統制するために出した武家諸法度とは、制定の主体や目的が異なります。
問11	答え 1 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した	インド航路の発見により、貿易の主役が地中海から大西洋に面した国々へと移りました。これにより、ベネチアなどのイタリア諸都市が行っていた、イスラム勢力を仲介とする従来の貿易ルートは大きな打撃を受けました。
問12	答え 1 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度	1232年に鎌倉幕府が定めた御成敗式目は、武家社会における最初の体系的な法律です。その後、戦国時代に各地の大名が分国法を定め、江戸時代に入ると、1615年に徳川秀忠の代で全国の大名を統制するための武家諸法度が制定されました。分国法は、幕府による全国的な法支配が途絶えていた時期に、地域限定で機能した法という位置づけになります。
問13	答え 1 フランシスコ・ザビエルによる布教以降、南蛮貿易の利益を求める戦国大名の中には、キリスト教に入信するキリシタン大名が現れた。	キリスト教の布教は、ポルトガルやスペインとの「南蛮貿易」と密接に結びついていました。鉄砲や火薬、生糸などの物資を得るために、九州を中心とした戦国大名は布教を許可し、自らも入信するケースが見られました。織田信長は布教を保護しましたが、その後の豊臣秀吉や江戸幕府は、キリスト教が封建的な支配体制を揺るがすことを恐れ、禁止へと方針を転換しました。